

白布ヶ丘だより

2月

…学校と家庭・地域の架け橋…

発行 栃木県立真岡高等学校

〒321-4331 栃木県真岡市白布ヶ丘24番地1

TEL 0285-82-3413 FAX 0285-82-2913

1 学年主任より

先日、あるサイト上に気になる話題が載っていた。「途中式を消さなければ不正解!?算数教育の奇妙な採点基準に大ブーイング」という数学科の教員として非常に気になるタイトルで、自分もブーイングされるようなことをやっているかも、と恐る恐る記事に目を通した。例として『 $10 \times 2 + 3 = 20 + 3 = 23$ と書いた児童が $10 \times 2 + 3 = 23$ と書かないといけなさとバツにされた』という内容で、私も何でバツなのかな、と筆者と同様に批判的な気持ちで読み進めた。次の例は、『「一袋8個入りのチョコレート7袋と袋に入っていないチョコレートが17個あります。全部でチョコレートは何個ありますか」という間に $8 \times 7 + 17 = 73$ と答えたところ、「×」の記号に「これは何ですか」と書かれてバツにされた』という内容だ。かけ算が未習の児童であったため、足し算で処理してほしいのだろう。(明らかにかけ算を誘導する問題文ではあるが)。『むしろかけ算を自習したのだから褒めて伸ばすところでしょ』というコメントが載せられていた。真岡高校生諸君はどのような感想を持つだろうか。

生徒諸君は答案に「証明してから使いなさい。バツ」と書かれたことはないだろうか。最近では1年生が割り算のmodで書かれたはずです。数Ⅲならロピタルの定理あたりでしょうか。ロピタルの定理は基本的に減点されることで有名です。一方で数Bでは漸化式の「特性方程式は解答欄には書かない方がいい」、つまり消せと。数学は思考の過程を重んじる学問であり、方法論や解決策を覚えることのみには軸を置いていない。しかし一方では不必要な記述を嫌うこともある。こんな風に考えていくと上記の2つの例は相反する2つの要求にさえ思えてくる。つまり最初の例では「数学は考え方を記述させないのは良くない」という主張、次の例では「数学は考え方を表現せずともいいではないか」という主張だ。「これは何ですか」と書いた先生は、かけ算を自習していることを認めつつも、一言説明してほしいのではないかと思う。それは答案に書かれた「証明してから使いなさい。バツ」と同じだ。このことは全面的な非難に値するのだろうか。個人的には、少なくとも2つ目の例に対し全面的に非難することができない。

私は数学以外の記事でもこれほど注意深く判断することができるだろうか。たぶんできない話で、おそらく記事の論調にいと簡単に同意するだろう。素直な私は本やネットに「うまい」と書いてあれば、とりあえずその店を選んでしまう傾向がある。しかし、本当は自分で判断しようとする主体性をもたなければいけない。自分なりに判断できるだけの知識を身に付けな

ればいけない。偏ることなく考えるような視野を広げなければいけない。世の中の多くの事柄は簡単に真偽を問うことができない場合が多い。真偽のわからないものに対して、自分で確かめ自分で判断する力、多角的なものにとらえ方を養ってほしい。本校の目標とする主体的に考えること「自らを主とせよ」を通して。

2 学年主任より

それぞれの高校に校訓はありますが、真岡高校のように、教育の基本理念をたったひとりであらわしている学校はそれほど多くないと思います。「至誠」という言葉は、真高生に何を求めているのでしょうか。あらためて私なりに考えてみましたが、考えれば考えるほど奥の深い言葉だと感じました。

「至誠」は、中国の有名な思想家、孟子の言葉に見られます。孟子は、「至誠天に通ず」「至誠にして動かざる者は未だ之有らざるなり」と言っています。まごころを尽くして行動すれば必ず周りから認めてもらえる。自分の成し遂げなければならぬこともきつとうまくいくはずだ。そのような意味です。

「人に対して誠実であれ」というのは、言うのは簡単ですが、実際に行動で示すとなるとなかなか難しいものです。人を気遣い、思いやる心を持つことはもちろんですが、利己心に打ち克つ精神力の強さが必要ですし、時には社会通念や常識といったものに立ち向かわなければならぬ意志の強さも必要になります。ですから、人に対して誠実であろうとすれば、当然、自身が強い人間であることが求められます。勉強と部活動を両立させて日々がんばる中で、心と体を鍛えることは「自分を強くする」ことですし、学問に励んで知識を身につけることも「自分を強くする」ことです。「至誠」には、真岡高校で共に学ぶ友人たちとの関係を通して誠実さや思いやりの心を育みなさい、という意味だけでなく、ここで自分自身を鍛えなさい、という意味も込められているのだと思います。

「もし、硬くて高い壁と、そこに叩きつけられている卵があったなら、私は常に卵の側に立つ。」これは、村上春樹が、2009年にエルサレム賞を受賞したときのスピーチの中の言葉で、彼が作家として常に大切にしている基本姿勢を語ったものです。「卵」は、か弱い一人一人の人間を、「壁」はそんな人間をとりまく強大なシステムを意味しています。村上春樹が意図したところと少し違ってしまいかもしれませんが、私はこの言葉を「常に弱い者の味方であれ」という意味に解釈しています。現代社会が抱えるさまざまな問題や矛盾の中で苦しんでいる人々が、世界中には大勢います。そんな人々に寄り添う

ことのできる人間、そんな人々のために社会を変えていこうと行動を起こせる人間。「至誠」とは、そんな優しく強い真高生に育ててほしいという願いが込められた言葉なのだと思います。

校長と生徒会役員のランチミーティング

1月18日(木)の昼休み、校長室で校長と生徒会役員と一緒に昼食を食べるランチミーティングが行われました。最初に生徒会役員が一人ずつ自己紹介をしながら、今後の抱負や昨年の反省などを話しました。昨年後半から各部活動や生徒会も生徒自らホームページの更新ができるようになったこともあり、ホームページをもっと更新できるようにしたいなどという話がありました。校長からは、もっと周りを巻き込んで学校全体の活性化を図ってほしいという要望が述べられました。



学年奉仕活動

1年生による奉仕活動を1月26日(金)の第6、7時限に行いました。22日(月)から23日(火)にかけて大雪となったため、かなり雪が残っていました。とても寒い中での活動となりましたが、生徒は雪かき、学校周辺のゴミ拾い、教室の床のワックス掛け、廊下の汚れ落とし、トイレ清掃等を熱心に行いました。



年金セミナー

2月2日(金)の第6時限に2年生を対象とした年金セミナーを実施しました。講師は、日本年金機構宇都宮東年金事務所の室野井芳子さんで、「知っておきたい年金のはなし」という演題で、公的年金制度について大変丁寧にわかりやすく説明をしていただきました。また、今回は生徒の進路選択の一助となるように、今年度、日本年金機構に採用された方にも就職活動の体験談を話していただきました。

第2回学校評議員会開催

2月16日(金)本校会議室に於いて本年度2回目の学校評議員会が実施されました。学校評価アンケートの結果とそれに基づく学校の自己評価を評議員の方々にご説明した後、「真岡高校でいかに自分が成長したか」をテーマにした生徒会役員による意見発表があり、それらについてのご質問やご意見、普段の学校運営に関するご意見等をいただきました。生徒の発表は、とても好評でした。いただいたご意見の内容については学校関係者評価として、本校の自己評価、アンケートの結果とともに年度末にHPにて公開いたしますので、詳しくはそちらをご覧ください。



2月～3月の行事予定

【2月】

- 20日(火) 学年末テスト(～23日)
- 23日(金) 進路集会(1・2年)
- 24日(土) サタデーセミナー(1・2年)
土曜開放
- 26日(月) 面接強化期間(～3/16)
- 27日(火) 卒業式場作成・大掃除(5限～)
- 28日(水) 卒業式予行・同窓会入会式
「白布ヶ丘PTA通信」発行

【3月】

- 1日(木) 卒業式
- 3日(土) 土曜開放
- 6日(火) 午前中授業①②⑤⑥
午後学力検査準備
- 7日(水) 一般選抜
生徒登校禁止(部活動なし)
- 8日(木) 生徒休業
- 9日(金) 生徒休業
- 10日(土) スタディーサポート(1年)
サタデーセミナー(2年)
土曜開放
- 12日(月) 生徒登校禁止(部活動なし)
- 13日(火) 合格者発表
- 14日(水) 短縮日課(45分授業)
- 16日(金) 合格体験発表会
- 17日(土) 土曜開放
- 19日(月) 生徒登校禁止(部活動なし)
(定時制入試)
- 23日(金) 修業式・大掃除
- 26日(月) 新入生オリエンテーション